

# 平成26年12月期通期連結業績予想

## ご説明資料

於：アナリスト協会  
2014年10月9日

O A T アグリオ株式会社

# ◆ 平成26年12月期通期連結業績予想



## 平成26年12月期通期連結業績予想値の修正

- 農薬登録制度における短期暴露評価制度の導入により、当社農薬製品の登録の一部変更を予定しており、これに伴い出荷量が減少する見込み。既に流通する製品の返品を受付も想定
- 在庫の評価損を主因として97百万の特別損失を第3四半期に計上予定
- その他欧州における開発薬剤の登録遅延により、ライセンスアウトによる成功報酬の計上が困難となったことや米州における開発薬剤の登録費用の増加も発生

金額：百万円

科目	平成25年12月期 通期連結業績	平成26年12月期通期連結業績		増減率	
		前回発表	修正予想	前年比	前回発表比
売上高	10,856	12,007	11,238	104%	94%
営業利益	709	1,247	660	93%	53%
経常利益	743	1,219	637	86%	52%
当期純利益	466	756	334	72%	44%

※平成26年12月期の配当予想は変更なし

## 制度変更の内容

- 今までの農薬の安全性評価は、長期間の経口摂取による健康への影響を主眼として行われていたが、それに加えて、短期間の経口摂取による影響の指標を設定する新しい評価方法が導入。

## これまでの経緯

- |     |   |
|-----|---|
| 3月  | ・ 厚生労働省 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会において短期暴露評価制度導入方針が示される         |
| 5月  | ・ 農林水産省農薬対策室に短期暴露評価の試算方法について相談                                    |
| 6月  | ・ 経営会議において、短期暴露評価の結果から農薬登録への影響は少なく、業績に与える影響は軽微であるとの報告<br>・ 東証二部上場 |
| 7月  | ・ 同系統化合物メーカーより農林水産省 農薬対策室から短期暴露評価制度に関し、新たな要請がなされるとの報告             |
| 8月  | ・ 農林水産省農薬対策室にて、新たな評価方法の内容確認<br>・ 決算補足説明資料において業績への影響を開示            |
| 9月  | ・ 農薬対策室と短期暴露評価について協議継続  |
| 10月 | ・ 通期連結業績予想の修正を開示  |

# ◆ 業績修正の主要因

## 【営業利益】

■ プラス要因      ■ マイナス要因

平成26年12月期通期連結業績（前回発表予想）：1,247百万円



海外販売増加：240百万円

農薬登録基準変更による影響：537百万円  
 （\* 来年度は、最大影響額を735百万円と見込んでおります）

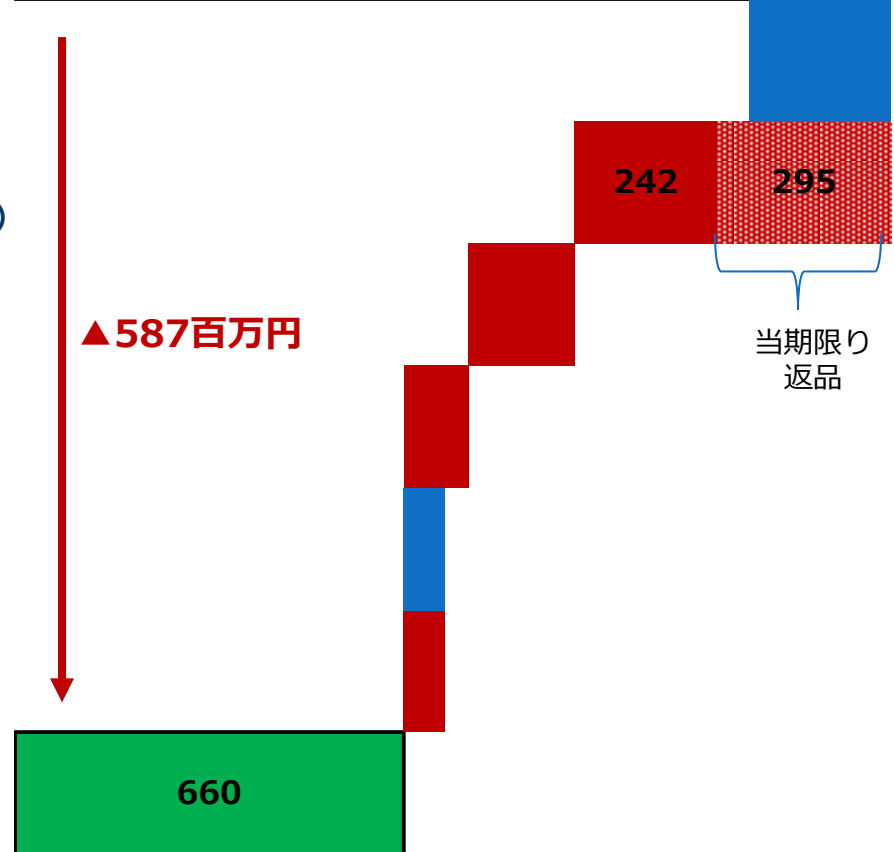
製造原価増：180百万円

マイルストーンペイメント減：110百万円

※販管費及び一般管理費減：70百万円

研究開発費増：70百万円

平成26年12月期通期連結業績（修正予想）：660百万円



※販売費及び一般管理費は研究開発費を含んでおりません

## 1.

### 経営資源をアミノ酸有機肥料・バイオスティミュラント（BS） 事業に重点配分する

- ステビア資材の営業権の取得  
OATステビア株式会社の設立
- 亜臨界実験プラントの建設  
アミノ酸有機肥料の開発  
未利用資源の活用と循環型エコ社会への貢献

## 2.

### 農薬事業の海外展開の加速

- インド研究所竣工式(2014.9.26)  
新規農薬の探索と特許化 年間7000化合物を合成し、  
3年間で2-3個の開発候補化合物を生み出す
- ダニサラバ  
ブラジル・米国・メキシコ・カナダ・アルゼンチン・ペルー及び中東での販売
- オンコル  
パキスタン・タイ・ベトナム・インドネシア・インドへの展開
- アトニック  
米国・メキシコ・フィリピン・タイ・インドネシア・インド・トルコへの  
展開を加速

## 3. 経営基盤としての国内事業の効率化を図る

- 新製品の投入、3年間で18剤
- 農薬と肥料の効率的で、バランスある拡大を目指す
- 水稻除草剤の開発と市場シェア獲得
- グリーン農薬及び有機肥料の拡大

2014年4Q	2015年	2016年	2017年	Total
殺虫剤 3剤				殺虫剤 3剤
	ダニ剤 2剤			ダニ剤 2剤
	殺菌剤 2剤	殺菌剤 1剤		殺菌剤 3剤
	除草剤 2剤			除草剤 2剤
		新規除草剤 原体供給 2社	新規除草剤 原体供給 1社	新規除草剤 原体供給 3社
ステビア 資材 4剤	B S 1剤			ステビア BS 5剤
7剤	7剤	3剤	1剤	18剤

※ B S : バイオスティミュラント

# ◆ 売上高・営業利益(推移予想)

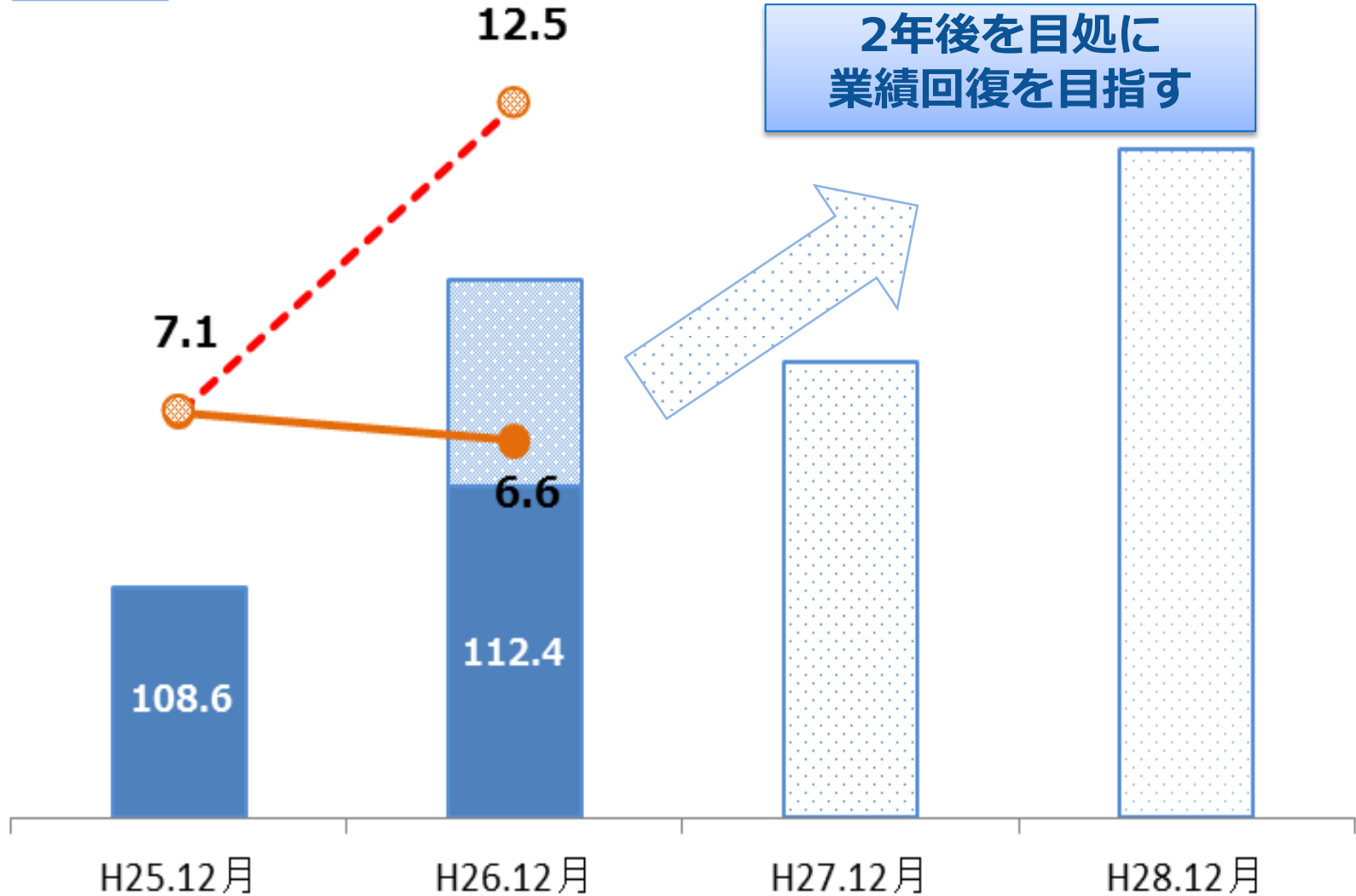
金額：億円



売上高



営業利益



## ◆ 津波浸水圃場（塩分濃度1.6%） 宮城県石巻市蛭田地区

2011年6月9日 田植え20日後



2011年7月13日



2011年9月15日





# ◆ 土壌修復及び増収効果確認(ステビア資材)

対象区

試験区 (ステビア施用)

収量: 例年比108%



# ◆ 大田市場 神田青果 叶久商店でのステビア食材取扱い



# ◆ OAT&IIL(INDIA) LABORATORIES PVT LIMITED

研究所総勢 51名



2014年9月26日 竣工式(ビワディ)日本大使館他300名 パーティー180名グルガオン

ご清聴ありがとうございました